

大正大学社会福祉学会

# 鳴台社事通信

第5号 1986. 9. 3

事務局 東京都豊島区西巣鴨3の20の1 社会福祉学科内  
〒170 TEL 03(918)7311 内線 277  
振替口座 東京 6-195755 大正大学社会福祉学会

## 第10回 学内社会福祉学会を迎えるに当って

「上求菩提、下化衆生」の心で生きよう

大 谷 寿 雄  
(昭和25年度 第1回卒業)

恩師の諸先生、同窓の先後輩の諸兄姉の皆さん、平素ご無沙汰ばかりしておりますが、お元気で、社会福祉の各分野で、又多方面で御活躍の事と御同慶にたえません。さて本年11月9日(日)新装なった母校大正大学に於て第10回の学内社会福祉学会が開催する事になりました。本年は大学が創立60周年に当り、社会学社会福祉科が戦後昭和24年に設置されてから37年がたちました。私が昭和24年に文学部社会学社会事業専攻に籍をおき昭和26年3月新制大学の第1期として卒業して以来満35年になりました。大正大学には社会事業の先駆者である渡辺海旭先生はじめ矢吹先生等多くの大先輩が創設以来おられ、社会事業各方面にわたる活動と学問的研究は誠に目をみはるものがありました。その伝統を受けつぎ、戦後新制大学になり文学部社会学社会事業専攻として学問とし独立し、社会学社会事業研究室が出来ました。長谷川良信先生をはじめ、高橋梵仙先生、吉田久一先生等多くの先生方がおられました。しかし学生は10名たらずで、1, 2, 3学年一緒に講義を受け行動

を共にした懐しい思い出が想い出されます。同窓の諸兄姉も20年代から今日の60年代、それぞれの時代と共に多くの先生方の教えを受け、青春の大学生活を社会福祉に熱情をかたむけ、師と語り、友と語った懐しい尊い思い出がおりと思います。私は卒業の時に長谷川先生から一枚の色紙を頂きました。それには「上求菩提、下化衆生」と筆でしたゝめてありました。私は今でも大切にしています。この精神が大正大学の社会福祉の根幹をなしていると思っています。仏の慈悲の心と「諸々の貧苦を救わずんば正覚を取じ」と阿弥陀仏の悲願をこの世界で実践するのが社会福祉の大道であると信じています。社会の一隅を燈す菩薩道として精進したいものです。本年は前学長の中村康隆先生も吉田久一先生もご出席をいたゞく事になっています。

多くの同窓、同志の諸兄姉の皆さん、是非参加してお互いの親睦と研修と苦勞話に花を咲かそうではありませんか。御多幸と御健闘をお祈りいたします。合掌

大正大学社会福祉学会

## 第10回大会の御案内

記念すべき10周年を迎えるにあたり、評議員の方々は、去る4月より会合を重ね、更に小委員会を作り知恵を出し合った結果、下記のような内容で今度の学会を開催しようということになりました。今回は門戸を広げ社会福祉学科外の方々にも広く参加を呼びかけて華やかな会にしたいと予定しております。

会員の皆様には、懐かしい方々と出会う又と無い機会と思います。そして変貌しつつある構内を見て歩くだけでも良い1日になることと思いますので、どうぞお子様連れで、またご夫妻で、お気軽に足を運んでいただきたく、ご案内申し上げます。

記

日時 昭和61年11月9日(日) A.M. 9:30～  
会場 大正大学巣鴨校舎・本部棟  
次第 記念講演「日本社会事業の黎明期に  
学ぶ」(仮題)

前日本社会事業大学教授

元大正大学教授 吉田久一先生  
座談会 「大正大学社会事業研究室  
の回顧と展望」

中村康隆・丸井玄信・重田信一・  
吉田久一各先生による公開座談会  
司会：長島和代先生

総会

記念パーティー(同窓会懇親会)

学生ホール

10年の間教壇に立っていただいた先  
生方に記念品贈呈。

参加費 検討中

(多くの方に参加していただきたく、  
できるだけ安くしたいと思っていま  
す。)

その他 当日「鴨台社会事業論集第8号」と  
「会員動向のしおり」(仮称)を配布します。

第10回大会を迎えるにあたって

## おねがい

お願いその(1)

第10回大会を成功させるために運営資金が多少不足しております。ここに同封の別紙の要領で、会員の皆様には御寄付を賜わりたく宜しくご送金下さいますようお願い申し上げます。特に今回参加されたくても諸般の事情でできない方、宜しく願い申し上げます。

お願いその(2)

10周年を記念して学科卒業生、並びに福祉の現場で働いておられる他学科卒の大正大出身の方の名簿(しおり)を作りたいと思っております。つきましては、同封の返信用葉書に近況をご記入のうえ、絶対忘れずにお返事下さい。皆様のご協力、宜しく願い申し上げます。(各年度の評議員の方、特に御配慮をお願い致します。)なお、返信用葉書がそのまま印刷されるよう考えております。

切日 昭和61年9月22日(月) 厳守

学会・室友会 共催

特別記念講演会が大成功で終了!

去る6月18日(水)午後3時より巣鴨校舎323教室に於いて、日本女子大学教授、一番ヶ瀬康子先生を講師にお迎えして「社会福祉学とは何か」という講演会が開かれました。

これは学会評議員会の席上で学会10周年事業の一環として企画されたもので、重田会長落合先輩のお口添えがあり、室友会役員が奮闘した結果実現したものです。当日は学科の学生は勿論、O・Bの方々、更に朝日新聞や豊島区広報を見て来た一般の方も多く、教室に入れない人が出る有様で、熱気あふれるものとなりましたことを報告いたします。

## 昭和61年度 社会福祉学科カリキュラム

	月	火	水	木	金
8:50 I 10:20	社会福祉学概論(原田)	社会福祉方法各論Ⅱ(大親)	社会福祉調査法(野坂)	社会福祉発達史(宇都)	生活構造論(岸)
10:25 II 11:55	社会福祉実習Ⅰ(野坂)	地域福祉論(原田)	埼玉校舎(10:55~12:25) 社会福祉学講義Ⅰ(北沢) 社会福祉学講義Ⅰ(岸)	児童福祉概論(吉沢)	社会福祉学演習(岸) 社会福祉学演習(石川)
12:40 III 14:10	老人福祉概論(原田)	社会福祉学演習(野坂)	社会福祉実習Ⅱ (13:00~14:30)	社会保障(岸)	社会福祉方法各論Ⅰ(石川) (薬・教養)経済学(岸)
14:15 IV 15:45	社会福祉学講義Ⅱ(野坂) 社会福祉学講義Ⅱ(石川)	社会福祉学演習(北沢) 社会福祉方法総論(野坂)		労働経済学概論(岸)	障害者福祉概論(北沢)
15:50 V 17:20	仏教社会福祉(石川) 佛社会福祉学概論(野坂)	社会福祉学特講(北沢)			教育福祉論(北沢)

実習事務担当 渡辺法子 月・水曜日 9:00~17:00  
副手 上原由紀 火・水・木・金曜日 10:00~16:30

(敬称略)  
注：(資)は資格科目  
(薬・教養)は巣鴨校舎における教養科目

### 昭和61年度 社会福祉実習先

実習Ⅰ) ワーク・キャンプ先 計48名  
社会福祉法人 松楓会 7・15~7・18  
社会福祉法人 山の学園共同村  
9・3~9・6

実習Ⅱ) 計26名  
〈老人福祉施設〉

藤サンクチュアリ、小鳴園、中川園、鶴生園  
尚和園、至誠特別養護老人ホーム、ディ・ホ  
ームすぎなみ

〈障害児者福祉施設〉

長岡療育園、宮崎県立明星学園、みどり愛育  
園、熊本県松橋療護園、みどり学園、埼玉県  
障害者リハビリテーションセンター

〈精薄児者福祉施設〉

東京都江東区生活実習所、横浜市さざんか学  
園、うめだ・あけぼの学園、東京都町田児童  
学園、さくら草学園、あさやけ作業所

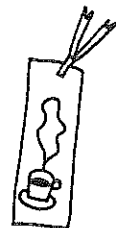
〈その他〉

婦人保護施設・さつき寮、養護施設・杉並学  
園、神奈川県立こども医療センター、大泉病  
院、千葉病院

実習先の選定は、先輩諸兄姉のご協力ご尽  
力が大きな支えでございます。後に続く者の  
ため、今後益々のお力添えを賜りますよう、  
お願い申し上げます。

### 昭和61年度 社会福祉学科学学生数

学年	男(人)	女(人)	計(人)
1	29	49	78
2	22	40	62
3	14	37	51
4	18	32	50
計	83	158	241



室友会々員名簿より

昭和61年3月卒業生(45名)中  
社会福祉関係への卒業生名一覧

朝見 滋	春日部東部病院
井野永実子	(社福) 富士聖ヨハネ学園
伊藤敦子	東京学芸大学特殊教育特別専攻科
伊藤久美子	野田市立精神薄弱者更生施設 こぶし園
石井孝征	(社福) こどもの国協会
井上浩一	(社福) かしの木会くず葉学園
木村洋子	千葉県福祉職
久保田顕一	(社福) かしの木会くず葉学園
小泉聡子	神奈川県立愛名やまゆり学園
佐藤伸一	(学) 旭出学園
岡司政江	あおぞら作業所
鈴木見和子	れんげ学園
稲吉なつみ	川崎市立平間保育園
外山英之	(社福) 松戸市社会福祉協議会
土岐昌弘	進和学園
松田早苗	荒川あさがお福祉作業所
水野晶子	(社福) 東京恵明学園
吉田千秋	江東区障害者福祉センター

今年度 室友会役員 ( ) 内学年

室長	佐藤恵司(3)
副室長	小林 格(3) 長谷川郁子(2)
学年委員	(4年) 芝田宏昭 見城智子 (3年) 西海洋一 吉田久美子 (2年) 藤村建夫 村石直子 (1年) 高山善文 岸小百合
企画委員	島崎賢二(3) 志村磨美恵(3) 金子陽子(2) 鈴木孝枝(2)
図書委員	高橋恵子(3) 荒井三恵子(3) 川鍋郁代(2) 坂本頼子(2)

鴨台社会事業論集の原稿募集のおしらせ

今年度中に論集第9・10合併号を発行予定です。今回の論集は学内社会福祉学会第9・10回大会の内容を中心に編集する予定ですが同時に論集は卒業生と卒業生を結ぶ大切な架け橋ですので、広く会員諸氏から原稿を募集したいと思います。現場での貴重な実践報告をお待ちしています。

応募要領：申し込み〆切；9月末日（葉書か電話で、氏名・卒業年度・題名・連絡先をお知らせ下さい。）原稿〆切；大会当日  
枚数 400字詰原稿用紙10～20枚程度

学科・室友会・動向 兼あとがき

(室友会) 「室友会って何だ?」ということ  
で会員にアンケート調査を実施し、その結果を「フクちゃん新聞」創刊号を発行し載せました。それによれば室友会の存在は知っていても活動内容は知らないし、活用したこともないという答が多く室友会の在り方が問われています。でも今室友会の役員は頑張っています。7月中旬のフレッシュマン・キャンプも終え、お休みしていた「福究誌」発行に燃えているのです。そして学会の協力にも。

(学科)

3月末で鴨脚特任教授が退官され、金田副手が結婚で退職されました。金田さんは秋田県に移られ石川寿世さんになりました。お幸せに！新たに4月より新卒の森田由紀さんが副手になりましたがご結婚により上原姓になり、1年生は定員増で倍近くの学生が入学し、あたふたと忙しい年度始めでした。そして8月初め岸先生はパパになります。夏休み中、学科のある4号館は改修工事が行なわれており、秋からは今少し住み心地が良くなるだろうと期待しています。秋は学会！今は学会を成功させることだけが課題なのです。(法)